

令和8年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立吾嬬立花中学校
校長名	河野 敏也

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
1年：・国語(+7.7)・数学(+0.8)・英語(+5.8)の3科において全国平均正答率を上回った。 ・思考・判断・表現の観点において国語(+9.5)数学(+1.3)・英語(+6.2)の3科において全国平均正答率を上回った。 ・活用問題において国語(+9.0)・数学(+1.3)・英語(+6.0)の3科で全国平均正答率を上回った。 2年：・国語(+1.3)・数学(+9.8)・英語(+5.3)・社会(+3.2)・理科(+3.1)の5科において全国平均正答率を上回った。 ・思考・判断・表現の観点において国語(+1.7)・数学(+1.9)・英語(+7.0)・社会(+0.7)・理科(+2.6)の5科において全国平均正答率を上回った。 ・活用問題において国語(+0.7)・数学(+2.7)・英語(+6.3)・社会(+3.6)・理科(+3.7)の5科で全国平均正答率を上回った。 3年：・国語(+3.4)・数学(+11.4)・英語(+10.6)・理科(+1.4)の4科において全国平均正答率を上回った。 ・思考・判断・表現の観点において国語(+5.1)・数学(+10.9)・英語(+12.3)・理科(+2.4)の4科において全国平均正答率を上回った。 ・活用問題において国語(+5.9)・数学(+10.4)・英語(+12.6)・理科(+2.7)の4科で全国平均正答率を上回った。	1年：・社会(-2.9)・理科(-0.8)の2科において全国平均正答率を下回った。・社会の領域「我が国の政治」が(-3.6)、「我が国の歴史」が(-3.8)全国平均正答率を下回った。・理科の領域「物質・エネルギー」が(-0.9)、「生命・地球」が(-0.8)全国平均正答率を下回った。・DE 層の率が理科で45.3%、社会で43.8%、国語で18.3%、数学で30.7%、英語で10.9%と理科と社会の基礎・基本の定着に課題がある。 2年：・国語の領域「言葉の特徴や使い方」(-2.1)「書くこと」(-0.1)全国平均正答率を下回った。・DE 層の率が社会で39.0%、理科で35.5%、国語で33.8%、英語で33.7%、数学で23.2%基礎・基本の定着に向けてさらに工夫する。 3年：・社会(-3.8)が全国平均正答率を下回った。・国語の領域「我が国の言語文化」(-0.9)「読むこと」(-0.3)全国平均正答率を下回った。・社会の領域「地理」(-2.4)「歴史」(-5.3)全国平均正答率を下回った。・理科の領域「地球」(-5.3)全国平均正答率を下回った。・DE 層の率が社会で60.3%、理科で41.6%、国語で31.0%、数学で25.7%、英語で23.8%で基礎・基本の定着に向けてさらに工夫する。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・「あなたの気持ちを分かろうとしてくれる先生がいますか」の肯定率が1年(+0.6)・2年(+0.7)・3年(+0.4)全国を上回っている。 ・「自分にはいいところがあると思いますか」の自己肯定率が1年(+10.1)・2年(+8.7)・3年(+7.4)全国を上回っている。 ・「思いやりをもってよく考えて行動する」の肯定率が1年(+0.3)・2年(+1.2)・3年(+8.4)全国を上回っている。 ・「授業では友達と教え合う時間がありますか」の肯定率が1年(+1.1)・2年(+0.7)・3年(+3.7)全国を上回っている。 ・「授業ではグループで話し合ったり討論したりすることがありますか」の肯定率が1年(+2.8)・2年(+0.5)・3年(+2.7)全国を上回っている。 ・「話し合いの時、自分の意見を積極的に発言している」肯定率が2年(+3.5)・3年(+1.5)全国を上回っている。	・「話し合いの時、自分の意見を積極的に発言していますか」肯定率が1年(-4.2)全国を下回っている。 ・「学校生活の中で何回ぐらい、自分の意見を発表したり、先生の質問に答えていますか」肯定率が1年(-9.9)・2年(-3.8)・3年(-5.2)全国を下回っている。 ・「授業以外で週に何日ぐらい勉強していますか」項目の4～5日以上率が1年(-3.0)・2年(-11.5)・3年(-4.9)全国を下回っている。 ・「土日祝日等、学校が休みの日にどれくらい勉強しますか」の項目の全くしない率が2年(+8.5)・3年(+2.1)全国を上回っている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
1年:・定期検査において領域別で 60%以上の得点率は国語「話すこと聞くこと」「漢字のよみ書き」「指示する語句と接続する語句」「説明文的な文章の読解」理科「花のつくり」「植物の分類」 2年:・定期検査において平均点が 50 点以上だった教科は国語・数学・英語・社会・理科である。 3年:〈定期検査における成果〉・国語では、文学的・説明的文章において読解力が向上し、記述式の回答の正答率が向上した。・数学では、毎回の授業の始めに前回の内容の復習問題を行い、基礎・基本が定着した。・英語では、様々な活動を通してインプットとアウトプットの機会をバランスよく取り入れている。定期検査やパフォーマンステスト等で成果が出ている。・社会では、インプットされた知識を生かし、自分の意見をまとめてアウトプットできるように	1年:・定期検査において領域別で 45%以下の得点率であったのは国語「文学的な文章の読解」・理科「物質の性質」「星の動き」 2年:・定期検査において 35%以下の得点率であったのは国語「漢字の書き」「自立語」「古文の内容理解」・数学「論述」「文章問題」・英語「質問に対して自分のことを英語で書く問題」・社会「複数の資料を活用した思考問題」・理科「物質の分類に関する問題」「化学反応式」 3年:〈定期検査等における課題〉・国語では、文法の知識の定着に課題がある。・数学では、思考の問題に課題がある。特に関数の分野を苦手とする生徒が多い。・英語では、長文読解が課題である。速く読み進める力と必要な情報を読み取る力に課題がある。・社会では、グラフや表の読み取りに課題が

なった。・理科では、実験の考察に力を入れたことにより思考力が上がった(特に、「遺伝」「生物の細胞」「物体の性質」)。	ある。・理科では、知識の定着が課題。
---	---------------------------

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1)校内研修テーマ「主体性を育む教科指導～アウトプット学習の実践～」で深い学びを追及実現させて学力の定着と向上に繋げる。

- ・校内研修において、「アウトプット学習」について焦点をあて、対話する・説明する・発表することを実践し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。また、「学習の個性化」では、生徒の興味・関心を喚起する課題を掲示して、身に付けた知識・技能を積極的に活用させる。
- ・「協働的な学び」においては、話し合い活動・教え合い活動を充実させて、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

(2)インプットとアウトプットのバランスのとれた授業を行い、生徒が活動する場を増やす。

- ・「ミライシード」「問題データベース」「ふりかえりシート」を活用し、繰り返し問題に取り組ませることで、「習ったことは確実にできるようにする」を合言葉に知識・技能の定着を図る。
- ・発展問題等の問題演習を通して、学び合いや教え合いの活動場を増やし、生徒の自己有用感や学びに向かう力を高める。

(3)学習へ向かう動機付けと達成感あるコンテストを行い、家庭学習の習慣化を図る。

- ・ミライシードを活用し、学校全体で毎日課題を配信して、家庭学習に取り組ませる。
- ・家庭学習で取り組ませた課題を、短いサイクルのマイスタコンテストとして5科行うことで、「分かる」「できる」の達成感を味わわせる。
- ・進路指導部を中心に定期考査前に質問教室を計画し、分からないことはすぐ質問する等、学び合いの主体性を醸成する。

3 「令和9年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・アウトプット学習を促進し、全教科 DE 層を38%以下にして、ABC 層の割合を3%増やす。
- ・区学習状況調査において、全観点の平均正答率が全国を上回る割合を70%以上にする。
- ・振り返り学習も充実させて、同一集団の標準スコアが前年度を下回る教科をなくす。